

桐が谷通信

CHUBU GAKUIN UNIVERSITY
CHUBU GAKUIN COLLEGE

第40号

2009年6月15日

発行 中部学院大学 宗教委員会
中部学院大学短期大学部

〒501-3993
岐阜県関市桐ヶ丘二丁目1番地 TEL (0575)24-2211

中部学院大学・中部学院大学短期大学部 2008年度クリスマス礼拝説教

「東方で見た星」

日本基督教団 牧師 関田 寛雄

マタイによる福音書 2章1節～12節

「イエスは、ヘロデ王の時代にユダヤのベツレヘムでお生まれになった。そのとき、占星術の学者たちが東の方からエルサレムに来て、言った。『ユダヤ人の王としてお生まれになった方は、どこにおられますか。わたしたちは東方でその方の星を見たので、拝みに来たのです。』……彼らが王の言葉を聞いて出かけると、東方で見た星が先立って進み、ついに幼子のいる場所の上に止まった。学者たちはその星を見て喜びにあふれた。……彼らはひれ伏して幼子を拝み、宝の箱を開けて、黄金、乳香、没薬を贈り物として献げた。ところが、『ヘロデのところへ帰るな』と夢でお告げがあったので、別の道を通って自分たちの国へ帰って行った。」

1. 「東方」という所は旧約聖書においては必ずしも良い意味を与えられていません。例えばエデンの園でアダムとエバは禁断の木の実を食べたことで、神の怒りを受けて楽園の「東」に追放されました（創世記3章）。アダムとエバの間に生まれたのがカインとアベルという兄弟でした。しかし神への供物をめぐってカインは妬みの故に弟を殺害してしまいました。神の怒りを受けてカインはエデンの更に「東」ノド（さすらい）の地に追放されました（創世記4章）。更に創世記11章にはバベルの塔の物語があります。れんが造りの技術を知った人々は、「天にまで届く塔」を造ろうとし、神の座である天に届かせようとしていました。

この傲慢な人間の企てを神は審き、人々の言葉を通じなくさせ、塔は未完成のままに終わりました。これは「東」の方の人々による、シニアルの地での出来事でした。

このように旧約聖書において「東」は神から遠ざけられた人々の地、いわば陽の当らぬ地でありました。しかし新約聖書に移ると、冒頭のマタイによる福音書では、救い主誕生を示す星は先ず「東」の方の、「神の選民」とされるユダヤ人以外の異邦人・占星術学者に発見されたのです。これは生まれて来る救い主は万民に神の愛を告げる方である事を示しています。かつて神から遠くあった「東」の諸民族も、新しく神との恵みの交わりに入れられるという福音が明らかにされたのです。この一事に既にクリスマスの意味が告げられているのではないのでしょうか。

2. 暴君ヘロデは自分以外に王が生まれたと聞いて、不安に駆られ、この生まれたばかりの幼子を殺そうと画策し、学者たちに新しい王の情報を持ち帰るよう命じ、学者たちを送り出します。あの「東方で見た星」に導かれて学者たちは幼子を訪ねあてました。金殿玉樓の王宮ではなく、そこは貧しい（ルカによる福音書によれば家畜小屋）家でした。しかし学者たちはここで生まれたばかりの、命そのものである「救い主」を拝し、最善の献げ物を献げたのです。その時「学者たちは喜びにあふれた」と記されています。それは当時の最

高の知識人であった占星術の学者たちは、この星によって、仕えるべきはいと小さき者、命そのものとして生まれたこの方である事を教えられたからではないでしょうか。学問とそれを営む知性は、暴君ヘロデにではなく、この命そのものとしての幼子に仕えるべきでありました。凡そ知性には方向性が必要なのです。悪しき権力や財力などではなく、無限の可能性と約束に満ちている命に仕え、命を守り、命を育む方向で知性は発揮されなければなりません。

中部学院大学はその基本的目標として、福祉の実現・充実・徹底を目指して設立された大学です。「神を畏れることは知識のはじめである」(箴言1章7節)を校是とする大学です。「神を畏れる」とは神の創られた命を愛し命を守り命を育むことに他なりません。その事が「知識のはじめ」であり、知性の原点なのであります。

3. 「ヘロデのところへ帰るな」との夢のお告げは、神からの啓示を意味しています。神はこの学者たちに悪しき権力との訣別を命じています。命に仕える事を使命として生きる者は、命を抑圧し搾取する悪の権力に対しては勇気を持って訣別しなければなりません。それは勇気のいることですが、命に仕える者としての喜びが必ずやその勇気を支えてくれる事でしょう。命に仕える使命こそがその人に自立と自由を与えてくれるのです。今、学んでいる大学でこそ命に仕える知性を深く豊かに養って行きたいものです。

かつて私は川崎でキリスト教会を営んでいる時、粉塵公害で長男が喘息を発しました。川崎の反公害運動に携わる中で、公害セミナーに出会いました。熊本の水俣病の患者代表のKさんが講演に見えたのですが、講演の最後に次のように言われた言葉が忘れられません。「私もせめて高校だけでも出ていたら、チッソにあんな事までさせなかったでしょう」と。貧しさの故に学ぶ機会のなかった方々のために、知識を得たものは責任があるのです。その方々の叫びにどう応えて行けばよいのでしょうか。

(2008年12月22日 クリスマス礼拝)

「中部学院大学クリスマスに参加して」

関田 寛雄

これまで何度か大学の礼拝や講演などの機会に本大学を訪れたことがあったが、この度は初めて大学クリスマスの祝会に出席させて頂いた。そして生命力溢れる学生諸君兄弟のクリスマス・パーティーでの活躍ぶりには心から感動を与えられた。私自身は青山学院大学で40年の教員生活をなし、その間、いわゆる宗教主任(チャプレン)の立場にもあったので、クリスマス礼拝は何度も経験してきたが、礼拝の内容は聖歌隊やハンドベル・クワイヤー位の学生参加で終わるのが常であり、学生参加によるクリスマス祝会なるものは、全く経験したことがなかった。それは1万8千もの学生を抱える巨大な大学の故で、小廻りの利かない、生活感の少ないキャンパス・ライフになっているからでもある。クリスチャンの学生サークルでは祝会を行なうにしても少数の集まりに終わっている。

しかし中部学院大学の場合は学生生活の有るがままの、生き生きした表現が、クリスマス祝会に盛大な形で溢れていた。それは各個の学生サークルの自己完結的な活動が、他の諸サークルとの交流の場を得て、互いの日常の営みの紹介と理解の場となって貴重な機会になっていたように思う。クリスマスを憶えつつ学生の生きるキャンパスへの祝福を祈る祈りが、祝会の始めと終りになされて、この祝会全体の位置づけが与えられている所



クリスマス祝会に出席された関田先生(中央)

にも心打たれた。学生だけではなく、教員も職員も日頃の役職の枠を越えて、人としての喜びの率直な表現に生きておられたことも感動の一つである。サンタクロースの衣装に身を包んで駆け廻っていた志村先生の姿は眼に焼き付いた。

このような形のクリスマス祝会は中部学院大学の特色あるイベントである。今後も学生諸兄姉の積極的な参加と相互交流の場として大切に継続される事が望ましいのではなかろうか。

やがて卒業生たちが、このような思い出と共に「ホーム・カミングディ」において、新しい家族たちと共に「ホーム」としての大学に帰り、友人や教師・職員たちとの再会の機会が与えられるとすれば、どんなにかすばらしいことではないだろうか。

この際、私自身と中部学院大学との個人的関係について一言させて頂きたい。私の父はかつて大阪の教会の牧師であり、名誉理事長片桐孝先生及びその母堂山本美子氏とは同じ教会員として、家族ぐるみのお交わりを頂いていた。孝先生は大阪福島教会附属愛輝幼稚園での私の先輩であり、大手前女学校時代のセーラー服の孝先生のイメージは私の心にはっきり刻み付けられている。開学以来の宗教主事雨宮栄一、梶原壽、そして現在の笠井恵二、志村真の諸先生とも公私の生活で深い交わりを頂いて来た方々である。私の心より愛している中部学院大学が片桐現理事長の下、益々その建学の精神にふさわしく発展されることを心より願ってやまないものである。

(2009年1月31日)

＜2009年度 前期チャペルアワー予定表＞

中部学院大学・中部学院大学短期大学部 宗教委員会

関キャンパス

実施日	曜日	奨励担当者	所属・役職
6月1日	月	小野 経 男	岐阜済美学院学院長
4日	木	笠井 恵 二	中部学院大学宗教総主事
8日	月	金 仁 果	在日大韓基督教岐阜教会牧師
11日	木	志村 真	中部学院大学短期大学部宗教主事
15日	月	桐山 潤	中部学院大学学生課長
18日	木	木下 忠 司	日本基督教団坂下教会牧師
22日	月	片桐 多恵子	中部学院大学短期大学部学長
25日	木	日高 伴 子	日本基督教団蘇原教会牧師
7月2日	木	野口 哲 哉	日本バプテスト連盟岐阜教会牧師
6日	月	笠井 恵 二	中部学院大学宗教総主事
9日	木	鴨下 直 樹	同盟福音基督教会芥見キリスト教会牧師
13日	月	梶原 壽	日本基督教団教師
16日	木	菊池 真	中部学院大学課長補佐
20日	月	今村初子、山川夕貴	オルガン礼拝

各務原キャンパス

実施日	曜日	奨励担当者	所属・役職
6月4日	木	中根 汎 信	日本キリスト改革派那加教会牧師
11日	木	笠井 恵 二	中部学院大学宗教総主事
18日	木	志村 真	中部学院大学短期大学部宗教主事
25日	木	山田 陽 子	中部学院大学教授
7月2日	木	笠井 恵 二	中部学院大学宗教総主事
9日	木	宗像 亮 二	日本基督教団各務原教会牧師
16日	木	志村 真	中部学院大学短期大学部宗教主事

チャペル・トーク

「愛」

大塚 信明 (日本基督教団 飛騨高山教会牧師)

ローマの信徒への手紙 12 章 9～15 節

今日は「愛」という題でメッセージを語らせていただこうと思います。しかし、「愛・愛する」ということについて考えたり、思いを深めたりしますと、どれだけ時間があっても足りません。今日は3つのことだけをお伝えしておきたいと思います。

1. 五木寛之さんという作家がおられます。この方がある本の中で、「今、わたしたち日本人の心はカラカラに渴いた状態だと思う。だからこそ思っても見ない凶悪な犯罪や事件が次々と起きたりしている。このカラカラに乾いた心を何で潤したらいいのか？ 月並みな発想ですが、愛以外には考えられないのです。・・・」と愛することの大切さを書いています。

2. 「恋愛」という言葉があるけれど、恋と愛とは同じですか？ もし違うのなら、恋と愛とはどちらがうのですか？ という問いがあります。私は恋と愛とは違うと思います。

さだまさしさんがある歌の中で「恋はいつかは消えてしまう。愛はずっと続くもの」と歌っています。恋は消えてしまうものです。ヨーロッパのある大学の研究で恋をしている人々と恋が冷めてしまった人々ではあるタンパク質の濃度が違っているという発表があったそうです。

また、聖書は、(コリント人への第1の手紙 13 章)には、愛は決して滅びないとするされています。

3. 「To live is to love」= 「生きることは愛することである」であります。愛することなしでも、

人は存在することが出来るでしょう。しかし、それでは本当に生きているとはいえない。人間にとって生きることは愛することです。

今日の聖書の言葉をゆっくりと噛みしめていただきたいと思います。ここには「愛する」とはどういうことか？ このような愛をもってあなたは人生を生きて行くべきですと勧めています。しかし、私たちはここに書いてある愛の姿のどれにも届きません。例えば、15 節「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい」という言葉が出て来ます。私たちは、泣く人と共に百パーセント泣くことができるのでしょうか？

阪神・淡路大震災の時、一人娘を亡くしてしまったお母さんが体育館で呆然と座っていました。そこへテレビ局のレポーターが来て、「今のお気持ちは？」とマイクを向けたそうです。そして「じやあ、頑張ってください」と元気よく声をかけて立ち去ったそうです。これに類するような画面を見て、腹を立てられた方は多いと思います。しかし、正直に言って、それでは自分は泣いている人と共に本当に百パーセント同じ気持ちになれるかと自らを問う時に、NOと言わざるをえません。

聖書では、人が本当の愛から離れていることを罪と呼びます。私の愛の不完全さをカバーするために主イエスは十字架にかかられました。イエス・キリストの歩みを学ぶ時、わたしたちは本当の愛の歩みを教えられます。

(2009年5月7日 関キャンパス チャペルアワー)

岐阜済美学院年題聖句 (2009年度～2010年度)

「心の清い人々は、幸いである、その人たちは神を見る。」

新約聖書(新共同訳)：マタイによる福音書 5 章 8 節

書籍紹介

「二冊の本」

宗教総主事 笠井 恵 二

昨年末、新しく小野経男先生が学院長として赴任されました。先生のご着任により、本学院の体制がさらに豊かに充実することは疑いありません。先生はご着任と殆んど同時期に『遠くて近い道—聖書と人生—』というご本を出版されましたので、ここにご紹介したいと思います。先生にはすでに25冊以上の著書がありますが、本書は先生の高校生の時からの信仰の歩みが語られていることで特別の意味があります。全体は5部に分けられ、第一部は「生きる」、第二部「人間の価値」、第三部「愛の波紋」、第四部「小さいもの」、第五部「遠くて近い道」となっています。先生の信仰生活は、大学受験期に友人に連れられて東京渋谷の教会に通うようになってからとのことですが、人生におけるさまざまな経験に裏打ちされた確かな信仰が本書のいたるところにちりばめられています。

先生は、2002年の春に45年間人生を共にした奥様に先立たれ、底知れない悲しみを経験されました。はじめはこれを埋めてくれるものは絶対にないという想いとらわれ、立つことさえできないような状況から、ご自身を支えてくれるもの、生かしてくれるものを求め、そしてついにマイナスに傾いていく考え方をプラスに持っていくものを発見します。それは生きる価値を見つけることでした。それをあたえてくれたものとして先生は、ルカ福音書12章の金持ちのたとえ話を挙げています。ここにある「神の前に富む者」というのは、永久に続くものを追求する人のことです。この世の命はいつまでも続くものではありません。それに拘泥しているだけなら、永遠なるものに結



びつくことはないのです。奥様が亡くなってから、奇跡としか言いようのないことが、つぎからつぎへと起こってきます。奥様が入院されてから一ヶ月の間、毎日欠かさず誰かから励ましの手紙が送られてきます。また亡くなってから一ヶ月たって持たれた記念会まで、遺骨の周りに花が絶えることがありませんでした。そしてそれもすべての花は白一色でした。他にも偶然とは思えないような不思議なことが起こります。これらのことから先生は亡くなった奥様がいつも身近におられるような気持ちになられます。そして全てのことは、神の計画のなかにあるということを感じて受け入れられたのです。

また、この本が出版された12月25日の同じ日に、短期大学部宗教主事の志村真先生も、『平和をめざす共生神学—スリランカの「対話と解放の神学」に学ぶ—』と題する本を出版されました。本書は志村先生の純粋な著書というよりも、先生がスリランカで長年にわたって交わりをもたれた三人のキリスト者の文章と先生によるコメントで成り立っています。

第一部は、レックス・M・P・ジョセフ牧師の論文と説教で、第1章「イエス物語を再話する」、第2章「スリランカ宗教における平和を目指す共生の取り組み」、第3章「スリランカにおいて平和を目指す新たな共生神学」、第4章「教会よ、神はここに！イエスはここにおられる！」、第5章「スリランカからのメッセージ」となっています。第二部は、アロイシウス・ピエリス氏のもので、第6章「アジアの解放の神学に向けて」、第7章「アジアの文脈における修道的貧しさ」と



なっています。第三部はロシア・S・スギルタラージャ氏の論文で、第8章「漂うアイデンティティと聖書解釈」、第9章「サフランの衣をまとったイエス?」となっています。第四部は志村先生自身の執筆による部分で、第10章「善いサマリア人の譬えをめぐる二つの『アジア体験』」、第11章「マリアは報復ではなく救いをうたう」、第12章「産着にくるんで飼葉おけに」となっています。

志村先生はアジアについて知りたいとの思いから、奥様と共に1988年6月から89年1月ま

での8ヶ月間、それまでおられた宮崎の教会を辞任してスリランカに滞在しました。そして、スリランカで出会った人々との出会いにより、アジアのかかえる大きな問題と対決し、共にその重荷を担おうという情熱に満ちた内容がこの本の中に語られています。想像を絶する悲惨な内戦の現状をつぶさに現地であって経験してきた先生の文章には圧倒されます。紙数の制限で十分に内容を紹介することはできませんが、直接手にとってお読みいただければ幸いです。

(2009年5月20日)

【予告】 宗教講演会

日 時： 6月29日（月） 第2限（11:00～12:20）
場 所： 中部学院 関キャンパス 11301教室
講演題： 「心の変化なくしては、変わりません」
講 師： 金城学院大学教授 サンフォード テイボーン氏
(TABORN, Sanford E.)



講演要旨：

アメリカ合衆国で初めての黒人大統領となったバラク・オバマ氏の当選は、多くのアメリカ人や世界中の人々を励まし、希望を与えるものとなりました。黒人アメリカ人、すなわち西アフリカの沿岸地域から奪われ、合衆国の地に奴隷として連れてこられた者たちにとって、オバマ氏の勝利はたいへん意味あるものです。黒人アメリカ人は、この勝利をマーティン・ルーサー・キング Jr. 牧師が1963年にワシントン D. C.で行った演説「I Have A Dream（わたしは夢見る）」への答えと理解しました。

オバマ氏の勝利が黒人アメリカ人にとってどれだけ意義深いものであったかを示すために、私は皆さんを私の人生の旅路にお連れしたいと思います。自由であるはずのアメリカに生まれた一人の黒人少年が、「与えられた場所」にじっとしている限りにおいてのみ自由である」ということを、どのように知っていったかについて、お話ししたいと思います。

講師略歴： アメリカ合衆国バージニア州ローノック生まれ。ノースカロライナ・セントラル大学卒。ジョージタウン大学修了。米国長老教会の教育宣教師となり来日。沖縄キリスト教短期大学教授を経て、現在は金城学院大学教授。大学と地域社会において、言語教育と宗教活動を活発に展開。